

ジオスペース館だより

【**知って楽しい!**
天文の基礎知識(11)】

★星は東から昇り西に沈むのはなぜ？

太陽を始め月や夜空に輝く星々の多くは、毎日、東から昇り西に沈んでいきます。このような星々の動きは、地球が西から東へ1日に1回、自転をしているために、そのように見える「みかけの動き」で、1日に1周することから「日周運動」といいます。

例えば、今読んでいる、この「ジオスペース館だより」に顔を真っすぐ向けた状態から、「ジオスペース館だより」を動かさずに、自分の顔を左に向けて回してみてください。すると、最初は正面に見えていた「ジオスペース館だより」が、顔を左へ回すのに連れて、自分の右の方へと、見える位置が変化すると思います。あたり前のように思えるかもしれませんが、自分の顔を西から東へと回る丸い地球に、「ジオスペース館だより」を夜空の星々に置き換えて考えると、地球の回る向きとは反対の方向へ星々が「みかけの位置」を変える理由が体感できるかと思えます。しかし、よくよく夜空を観察すると、全ての星が東から上り西へ沈むわけではありません。一日中、見える位置がほとんど変わらない北極星はその例外的な存在ですが、北極星の周りの星々も、沈むことなく北の夜空を1周しています。北極星は、自分の顔を左右に回した場合の、頭の真上にある天井の見える方向が変わらないのと同じで、地球の回転の軸の延長線上にあるために「みかけの位置」も変わらないのです。ちなみに、日周運動では、地球が1日24時間で約1回転するので、星々は1時間に約15度(360度÷24時間)移動します。

★ごかくぼし(五角星)【星の和名のお話】

「ぎよしゃ座」の「ぎよしゃ」は、漢字で「御者」や「馭者」と書き、馬や馬車を取り扱う人のことです。AURIGA(オーリガ)という学名もありますが、ギリシャ神話の戦馬車の操り手に因んで、日本では「ぎよしゃ座」と呼ばれています。「ぎよしゃ座」は星の並びが大きな五角形を作っていることから、「五角星」や「五つ星」と呼ばれました。また、「ぎよしゃ座」の1等星カペラにも和名があり、漁業が盛んな地方では、「すまるとの相手星」、「すまるとの相手星」などと呼ばれていました。すまると(すばる=プレアデス星団)は漁の時間を教えてくれる目安の星でしたが、そのすまるとが低くて自立たない時、同じ時間頃に上がるカペラの方が明るくて見つけやすので、カペラが上がれば相手(相方)のすまるとも上がったと判断していたのです。



★細い月が金星と木星に接近!!

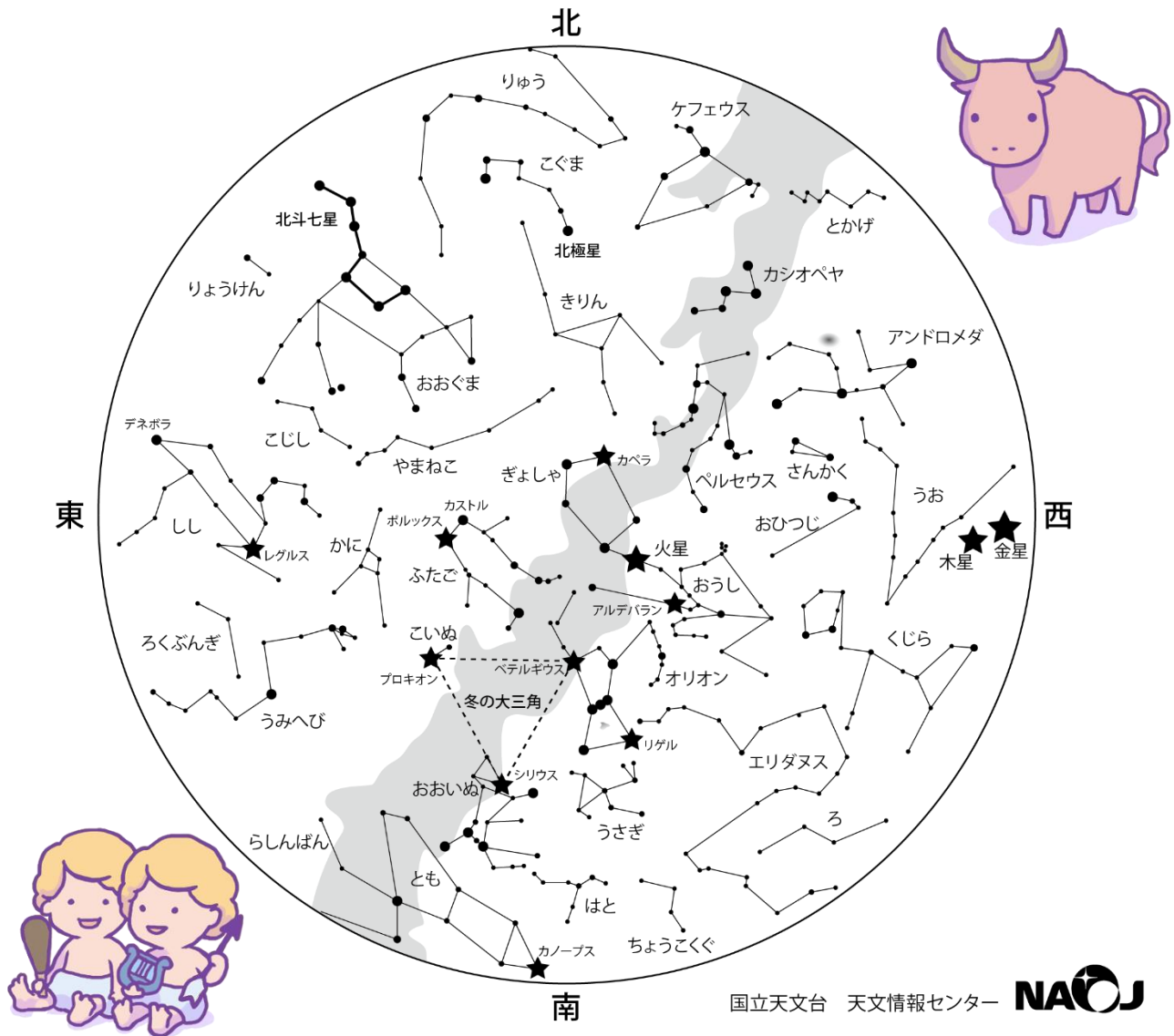
2月22日と23日は、新月を過ぎたばかりの細い月が金星と木星に近づきます。日の入り後、西空の低いところに金星が輝き、その上に明るい木星が見えます。22日には、細い月が金星のすぐ左下にあり、23日になると月は木星の上まで移動して、少し太くなるので見つけやすくなります。明るい3つの天体がそろるのはめずらしく、目を引く眺めなので、ぜひ観察してみましよう。



さらに28日には、上弦を過ぎたばかりの月が火星に近づきます。日の入り後の空がすっかり暗くなった頃、天頂付近に月と明るく輝く火星が並んでいます。その南には、「オリオン座」と「おうし座」があって、1等星ベテルギウスとアルデバランが赤さを競うように輝いています。この2つの赤い星と、明るく輝く火星の赤さを、この機会に見比べてみるのもオススメです。

☆☆ プラネタリウムは、工事のため1月～3月は休館しています ☆☆

2月下旬午後7時頃の星空



★ 2月下旬の主な天文現象

15日(水)	金星と海王星が大接近	23日(木)	細い月と木星が接近
19日(日)	雨水	27日(月)	● 上弦
20日(月)	● 新月	28日(火)	月と火星が接近
22日(水)	細い月が金星に接近		

★ 国際宇宙ステーション (ISS) 豊川での主なデータ 2/15~28 ※ 下記時刻は、予想値です

◇ 2月17日(金)	[見やすさ ◎]	5:54	南西	~	6:00	北東
◇ 2月18日(土)	[見やすさ ◎]	5:07	南南西	~	5:12	東北東
◇ 2月19日(日)	[見やすさ ○]	5:54	西	~	6:00	北北東
◇ 2月20日(月)	[見やすさ ◎]	5:08	北西	~	5:12	北東

豆知識：国際宇宙ステーション (ISS) は、明るい星が動いているように見えます。
飛行機のような赤緑ランプの点滅はありません。